令和2年度　中学生の「税についての作文」の受賞者

(紙面の都合により受賞者の一部を掲載しています)　(敬称略)

関東信越国税局管内納税貯蓄組合連合会長賞		
「命を救う税金」	千代田町立千代田中学校	一年　堀口　優空
群馬県納税貯蓄組合連合会長賞（金賞）		
私たちの暮らしを“守る”税金	千代田町立千代田中学校	一年　松沢　奈那美
群馬県納税貯蓄組合連合会長賞（銅賞）		
意味ある税	邑楽町立邑楽南中学校	三年　小室　芭和
群馬県納税貯蓄組合連合会長賞（優秀）		
税とは助け合い	太田市立北中学校	三年　青島　花恵
税の公平性とは	太田市立藪塚本町中学校	三年　石田　龍吾
十円ガム分の魔法	太田市立太田中学校	三年　大杉　怜那
税金と暮らしの関わり	太田市立太田中学校	三年　髙橋　未来
「平等」について考える	太田市立太田中学校	三年　三田　梓紗
税が支える私たちの生活	館林市立第三中学校	三年　森　美咲
税金を納める意味	大泉町立南中学校	三年　岡田　大海
館林税務署長賞		
生活を豊かにする税金	太田市立宝泉中学校	三年　大隅　友里
消費税の大切さ	館林市立第三中学校	三年　笠原　結衣
館林税務署管内租税教育推進協議会長賞		
より良い使い道を	太田市立宝泉中学校	三年　上田　珠実
税について	邑楽町立邑楽中学校	三年　平川　力暉
館林税務署管内税務協力団体連絡協議会長賞		
誰かのためになる税金	太田市立城西中学校	三年　南波　吾衣子
自分にもどってくる税金	館林市立第二中学校	三年　小野田　雫
群馬県太田行政県税事務所長賞		
税＝社会を支えるパワー	太田市立生品中学校	二年　高田　岳
群馬県館林行政県税事務所長賞		
税金の使い道と今後の暮らし	館林市立第四中学校	三年　稲葉　美羽
太田市長賞		
普通に生活できるということ	太田市立宝泉中学校	三年　阿部　心愛
館林市長賞		
「考えよう税のありがたさ」	館林市立第二中学校	三年　篠原　駿介
板倉町長賞		
税金とともに支え合う社会	板倉町立板倉中学校	三年　阿部　姫和

千代田町長賞				
千代田町の税金	千代田町立千代田中学校	一年	柴崎	沙耶
大泉町長賞				
税の必要性について	大泉町立西中学校	一年	柳澤	将吾
邑楽町長賞				
納税の義務について	邑楽町立邑楽中学校	二年	宮澤	弥希

令和２年度　税に関する高校生の作文の受賞者

（敬称略）

群馬県租税教育推進協議会長賞				
税金のありがたみ	群馬県立太田女子高等学校	一年	前田	実玖
あなたの納税が誰かを救う	群馬県立太田女子高等学校	一年	恩田	佳子
税金の使い道	群馬県立太田女子高等学校	一年	宮原	由依
生活を支える税金	群馬県立太田女子高等学校	一年	小此木	美優
館林税務署長賞				
納税の義務と権利	群馬県立太田女子高等学校	一年	濱田	真衣
税金のありがたさ	群馬県立西邑楽高等学校	二年	菅原	翔太
税金の重要性	群馬県立館林高等学校	一年	川井	遥太
未来への投資	群馬県立太田フレックス高等学校		広瀬	沙羅
税を通じて助け合う	群馬県立大泉高等学校	二年	小竹	舞桜
館林税務署管内租税教育推進協議会長賞				
税金によって支えられた私の身体	群馬県立太田女子高等学校	一年	丸山	心愛
私たちの安全な暮らしと税	群馬県立大泉高等学校	二年	野村	侑那
いつもは気がつかない税金の何気ない支えとは	太田市立太田高等学校	一年	宮本	悠愛
館林税務署管内税務協力団体連絡協議会長賞				
税に対する考え方	群馬県立太田女子高等学校	一年	中島	愛視
税金への関心	群馬県立太田女子高等学校	一年	小野里	萌
税について	群馬県立西邑楽高等学校	二年	今井	悠博
医療と高齢化	群馬県立太田女子高等学校	一年	廣瀬	真央
国民を支える税金	群馬県立太田高等学校	一年	髙橋	優太
税金は幸福を届ける	太田市立太田高等学校	一年	海老原	白耀
税金の無駄遣い・・・？	群馬県立太田女子高等学校	一年	長嶋	彩乃
学校と税金	関東学園大学附属高等学校	一年	中島	瑠菜

中学生の「税についての作文」受賞作品
【関東信越国税局管内納税貯蓄組合連合会長賞】

「命を救う税金」

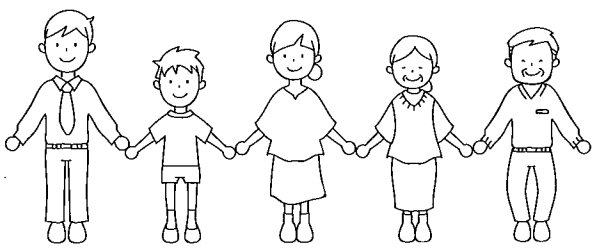
千代田町立千代田中学校
一年　堀口(ほりぐち)　優空(ゆうあ)

僕は「税金」と聞いても、正直よく分からなかった。コンビニでお菓子を百円買ったら消費税を八円支払う。この八円がなかったら、百円玉一つ出せば済むのに。子供の僕がなぜ税金を支払うのだろう。僕が税金について思うことは、せいぜいこの程度だった。今回税金について考えるために母に相談すると、僕に一番身近な税金の話を教えてくれた。

僕には五さい下の弟がいる。弟は予定よりも二か月早く生まれ、体重が二千グラムもなかった。僕は生まれて一週間で母と一緒に退院したが、弟は様々な器官が未発達のため、一人で保育器というものの中に入り一か月以上入院していた。退院後も感染症にかかるのを防ぐため、月に一度一本約十万円する注射を打たなければならなかった。その注射を七回打った費用と、一か月の入院費の合計は本来ならば二百万円近くかかった。しかし両親はその大金を自分たちで負担することなく、全て税金による助成金を受け、支払ったそうだ。

その後も弟は三さいになるまで定期的に受診を続け、今ではすっかり他の子供達と変わらずに遊んでいて、病気になることなく元気に過ごしている。その三年間の医りょう費も全て、両親ではなく税金で支払ってもらっていた。

驚いた。僕がよく分からないと思っていた税金のおかげで、弟の命が助かっていた。例え税金による助成がなかったとしても、両親は弟の命を救うためにお金を支払うだろう。しかしそれにより、我が家はとてつもない節約生活をすることになったと思う。あの時僕が買ってもらったおもちゃや本、食べたかったお菓子をいくつ我まんしなければならなかったか。

僕が払う意味があるのかと思っていた八円の税金が、目には見えないけれど、めぐりめぐってこのような形で僕に返ってきている。僕は何も知らず、このように思っていた自分がはずかしくなった。顔も知らないたくさんの人々が支払ってくれている大切なお金のおかげで、今弟が元気に生活している。これこそが助け合いの精神の基礎なのだと思った。裕福な家庭に生まれた子供だけが助かって、そうでない家庭の子供は命を落とす。そんな不平等があってはならない。誰もが平等に生きるためにも税金が使われていると分かった。

僕が支払っている税金はちっぽけなものかもしれない。しかし、今回税金について学んだことをきっかけに僕の意識は大きく変わった。僕が支払ったお金が誰かの役に立っている。誰かを救う助けになっている。そう考えたらうれしくなってくる。誰かが誰かのために、みんなで支え合っていくこの税金の仕組みを理解し、僕もこの社会を支える一人として、日々助け合いなどの意識をしながら生きていきたい。